

## 第2章 桐生市における自殺の特徴

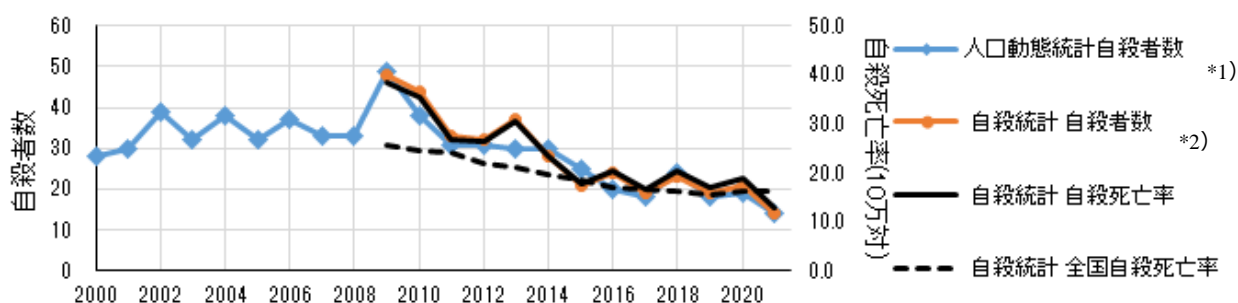
### 1 全国との比較

#### (1) 自殺者の推移

桐生市における平成 12 (2000) 年からの自殺者数はおおむね 30 人台で推移していましたが、平成 21 (2009) 年に 48 人と急増しました。その後、減少傾向にあり平成 26 (2014) 年からはおおむね 20 人台となり、令和 3 (2021) 年には 14 人と最小になりました。

また、平成 29 (2017) 年から令和 3 (2021) 年の自殺者数は合計 96 人 (男性 70 人、女性 26 人) です。人口 10 万あたりの自殺者数 (自殺死亡率) の平均は全国より高くなっています。

#### 長期的な推移 (自殺統計)



〔資料〕 いのち支える自殺対策推進センター「地域自殺実態プロファイル 2022 年更新版」\*3)

#### 2017~2021 年における推移 (自殺統計)

	2017	2018	2019	2020	2021	合計	平均
桐生市 自殺者数	19	23	19	21	14	96	19.2
桐生市 自殺死亡率	16.5	20.2	17.0	19.1	12.9	-	17.2
群馬県 自殺死亡率	18.2	17.9	18.4	18.4	18.7	-	18.3
全国 自殺死亡率	16.5	16.2	15.7	16.4	16.4	-	16.3

〔資料〕 いのち支える自殺対策推進センター「地域自殺実態プロファイル 2022 年更新版」

\* 1) 人口動態統計：厚生労働省から公表されている調査結果

\* 2) 自殺統計：警察庁自殺統計原票データに基づき、厚生労働省自殺対策推進室から公表されている「地域における自殺の基礎資料」

\* 3) いのち支える自殺対策推進センター「地域自殺実態プロファイル 2022 年更新版」：地域自殺対策計画の策定を支援するためにいのち支える自殺対策推進センターにおいて作成された、都道府県及び市町村それぞれの自殺の実態を分析した資料 (各年 1~12 月のまとめ)

## (2) 性・年代別の状況

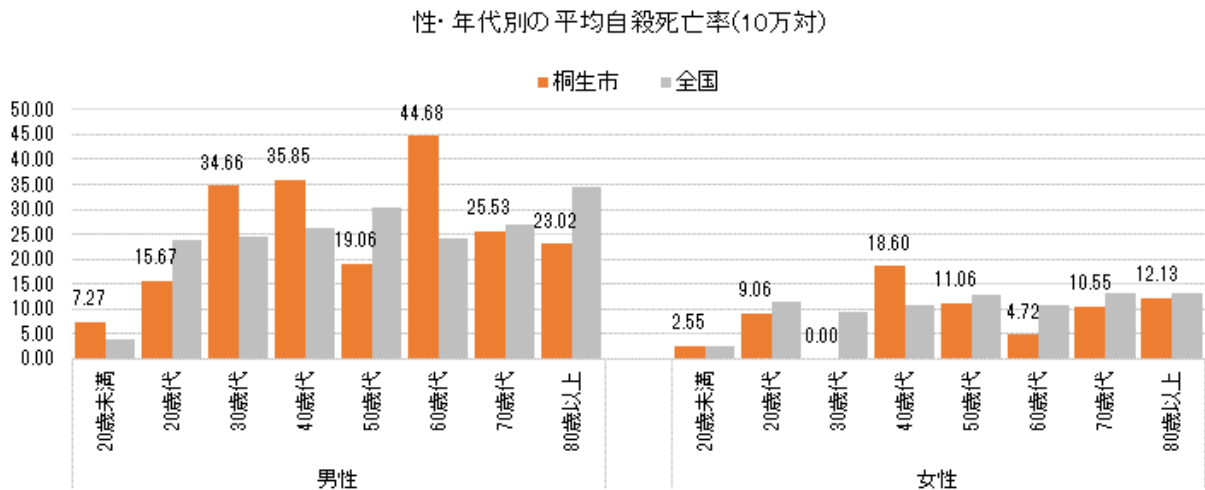
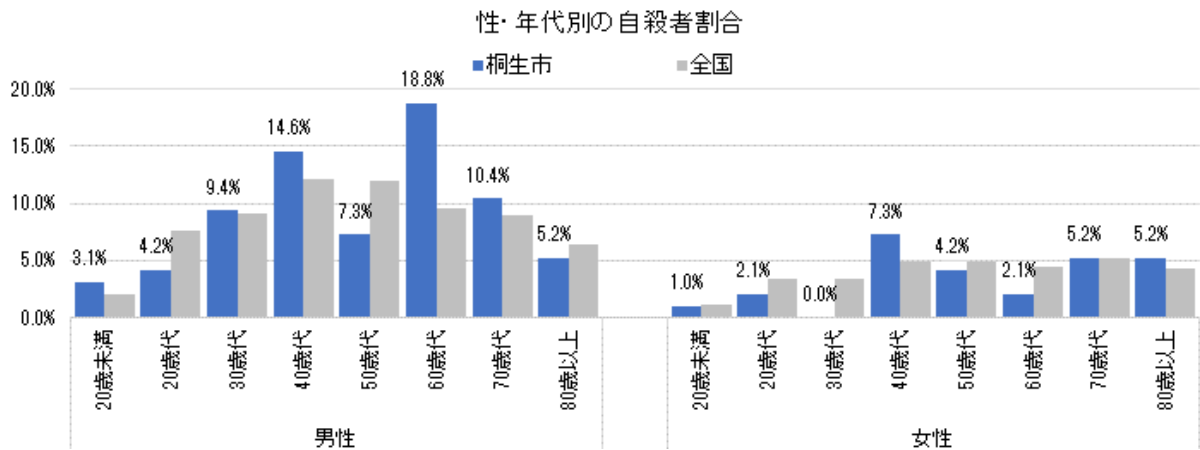
桐生市における平成 29 (2017) 年から令和 3 (2021) 年の性別の自殺者の割合は、男性 72.9%・女性 27.1%であり、全国の男性 68.1%・女性 31.9%と比較し男性の自殺者の割合が高くなっています。

性・年代別の自殺者割合及び自殺死亡率は、男性では 20 歳未満、30 歳代、40 歳代、60 歳代、70 歳代、女性では 40 歳代、80 歳代においてともに桐生市が高くなっています。

### 2017～2021 年における男女別自殺者数の推移 (自殺統計)

	2017	2018	2019	2020	2021	合計
桐生市 男	15	17	12	17	9	70
桐生市 女	4	6	7	4	5	26

### 性・年代別 (2017～2021 年平均) (自殺統計)



〔資料〕 いのち支える自殺対策推進センター「地域自殺実態プロファイル 2022 年更新版」

## 自殺者の性・年代別割合と自殺死亡率（10万対）（自殺統計）

2017～2021年		桐生市割合	全国割合	桐生市 自殺死亡率	全国 自殺死亡率
		100.0%	100.0%	17.15	16.25
男性		72.9%	68.1%	25.96	22.67
女性		27.1%	31.9%	8.97	10.14
男性	20歳未満	3.1%	2.0%	7.27	3.77
	20歳代	4.2%	7.7%	15.67	23.96
	30歳代	9.4%	9.1%	34.66	24.45
	40歳代	14.6%	12.1%	35.85	26.08
	50歳代	7.3%	11.9%	19.06	30.50
	60歳代	18.8%	9.6%	44.68	24.19
	70歳代	10.4%	9.0%	25.53	26.93
	80歳以上	5.2%	6.4%	23.02	34.34
女性	20歳未満	1.0%	1.2%	2.55	2.37
	20歳代	2.1%	3.5%	9.06	11.42
	30歳代	0.0%	3.4%	0.00	9.49
	40歳代	7.3%	4.9%	18.60	10.78
	50歳代	4.2%	4.9%	11.06	12.71
	60歳代	2.1%	4.5%	4.72	10.88
	70歳代	5.2%	5.2%	10.55	13.23
	80歳以上	5.2%	4.4%	12.13	12.97

〔資料〕いのち支える自殺対策推進センター「地域自殺実態プロファイル 2022年更新版」

### （3）子ども・若者（39歳以下）の状況

桐生市における平成 29（2017）年から令和 3（2021）年の 39 歳以下の子ども・若者の自殺者数は 19 人です。

内訳は、性別では男性 16 人・女性 3 人、年齢では 30 歳未満 10 人・30 歳代 9 人、職業の有無では有職者 6 人・無職等 13 人となっています。

### （4）勤務・経営の状況

桐生市における平成 29（2017）年から令和 3（2021）年の有職者の自殺者 28 人について、自営業・家族従事者、又は被雇用者・勤め人の 2 区分での割合を全国と比較したところ、自営業・家族従業者がやや高く、被雇用者・勤め人がやや低くなっています。

有職者の自殺の内訳（特別集計\*4）

2017～2021年	桐生市 自殺者数	桐生市 割合	全国 割合
自営業・家族従業者	6	21.4%	17.5%
被雇用者・勤め人	22	78.6%	82.5%
合計	28	100.0%	100.0%

〔資料〕いのち支える自殺対策推進センター「地域自殺実態プロファイル 2022年更新版」

\*4）特別集計：警察庁自殺統計原票データを厚生労働省自殺対策推進室といのち支える自殺対策推進センターで特別集計し作成したもの

令和 2（2020）年において桐生市内に常住している就業者のうち 38.6%が他市町村で従業しています。また、桐生市内で従業している就業者のうち 35.1%が他市町村に常住しています。

桐生市の就業者の常住地・従業地別人数（令和 2 年国勢調査）

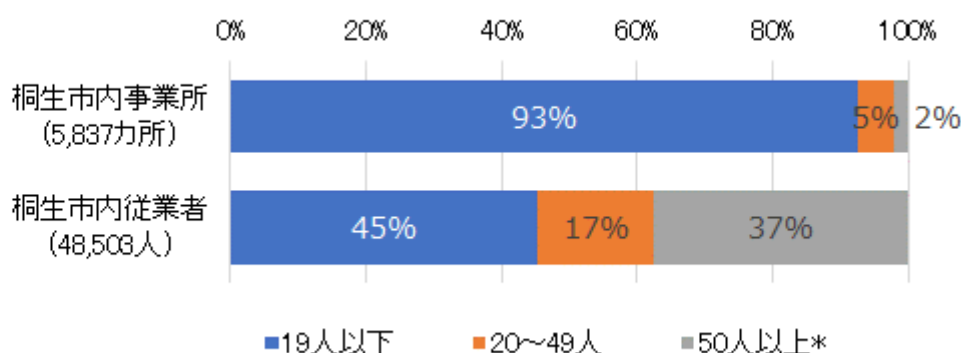
		従業地		
		桐生市内	他市町村	不明・不詳
常住地	桐生市内	29,623	19,595	1,558
	他市町村	15,995	—	—

〔資料〕 いのち支える自殺対策推進センター「地域自殺実態プロファイル 2022 年更新版」

平成 28（2016）年における桐生市内の事業所の 98%は、従業者数が 50 人未満となっています。

労働安全衛生法において、従業者数 50 人以上の事業所では平成 27（2015）年 12 月から年に 1 回、労働者自身が自分のストレスがどのような状態にあるのかを調べるストレスチェックの実施が義務付けられています。しかし、50 人未満の小規模事業場には義務付けられていないためメンタルヘルス対策の遅れが懸念されます。

桐生市の事業所規模別事業所／従業者割合（平成 28 年経済センサス）



	総数	1～4人	5～9人	10～19人	20～29人	30～49人	50～99人	100人以上	出向・派遣従業者のみ
事業所数	5,837	3,868	1,022	516	197	102	68	48	16
従業者数	48,503	8,250	6,727	6,957	4,715	3,674	4,455	13,725	0

〔資料〕 いのち支える自殺対策推進センター「地域自殺実態プロファイル 2022 年更新版」

## （5）高齢者の状況

桐生市における平成 29（2017）年から令和 3（2021）年の 60 歳以上の自殺者について、性年齢階級別、同居人の有無により分類しその割合を全国と比較したところ、同居人あり・なしの 60 歳代男性、同居人ありの 70 歳代男性、同居人なしの 70 歳代女性、同居人ありの 80 歳代女性の割合が高くなっています。

## 60歳以上の自殺の内訳（特別集計）

性別	年齢階級	同居人の有無					
		桐生市人数		桐生市割合		全国割合	
		あり	なし	あり	なし	あり	なし
男性	60歳代	11	7	24.4%	15.6%	14.0%	10.4%
	70歳代	8	2	17.8%	4.4%	15.0%	8.0%
	80歳以上	4	1	8.9%	2.2%	11.5%	5.0%
女性	60歳代	1	1	2.2%	2.2%	8.7%	2.8%
	70歳代	3	2	6.7%	4.4%	9.1%	4.3%
	80歳以上	4	1	8.9%	2.2%	6.9%	4.3%
合計		45		100%		100%	

〔資料〕いのち支える自殺対策推進センター「地域自殺実態プロファイル 2022 年更新版」

## （6）自殺未遂の状況

桐生市における平成 29（2017）年から令和 3（2021）年の自殺者のうち、自殺未遂歴のあった者の割合は 20.8%です。

これは、自殺で亡くなった市民の 5 人に 1 人以上が、亡くなる前に自殺未遂を経験していたということであり、自殺対策のうえでハイリスクの対象とされる未遂者への対応が求められています。

### 自殺者における未遂歴の総数（自殺統計（自殺日・住所地））

2017～2021 年未遂歴	桐生市人数	桐生市割合	全国割合
あり	20	20.8%	19.4%
なし（不詳含む）	76	79.2%	80.6%
合計	96	100%	100%

〔資料〕いのち支える自殺対策推進センター「地域自殺実態プロファイル 2022 年更新版」

救急出動において、故意に自分自身に傷害等を加えた事故及び自殺未遂を自損行為として取り扱います。桐生市における平成 29（2017）年から令和 3（2021）年の自損行為による出動件数の合計は 240 件であり、性別では男性 47.5%・女性 52.5%と、女性が多くなっています。

### 2017～2021 年における自損出動件数の推移

		2017	2018	2019	2020	2021	合計
性別	男	24	28	24	23	15	114
	女	25	31	20	27	23	126
桐生市合計		49	59	44	50	38	240

### 年齢階層別内訳（2017～2021 年）桐生市合計

	18歳未満	18～24歳	25～34歳	35～44歳	45～54歳	55～64歳	65歳以上	合計
件数	10	35	41	33	26	27	68	240
割合	4.2%	14.6%	17.1%	13.7%	10.8%	11.3%	28.3%	100.0%

職業別内訳（2017～2021年） 桐生市合計

	2017	2018	2019	2020	2021	合計
有職（常勤）	10	19	12	17	13	71
無職	27	26	24	21	18	116
その他	12	14	8	12	7	53
合計	49	59	44	50	38	240

程度別内訳（2017～2021年） 桐生市合計

	合計
死亡	25
重症	31
中等症	68
軽症	42
その他	74

〔資料〕桐生市消防提供資料

（7）ハイリスク地

平成 29（2017）年から令和 3（2021）年において、桐生市内で自殺が確認された人数を発見地、住所が桐生市にあった自殺者数を住居地として計上しています。

ハイリスク地とは、自殺者の発見地÷住居地の比（％）が 122％以上かつその差が 5 人以上の場合をいいます。

桐生市の平成 29（2017）年から令和 3（2021）年の合計については、比 108％、差 8 人であることからハイリスク地ではありません。

桐生市における発見地・住居地別自殺者数の推移（自殺統計）

自殺統計 （自殺日）	2017	2018	2019	2020	2021	合計	集計 （発見地/住居地）	
							比	差
発見地	18	27	20	19	20	104	108%	
住居地	19	23	19	21	14	96		+8

桐生市における年代別自殺者数

2017～2021年	29歳 未満	30-39 歳	40-49 歳	50-59 歳	60-69 歳	70-79 歳	80歳 以上	不詳	合計
発見地	13	10	22	12	22	15	10	0	104
住居地	10	9	21	11	20	15	10	0	96

〔資料〕いのち支える自殺対策推進センター「地域自殺実態プロファイル 2022 年更新版」

## (8) 桐生市の自殺の特徴

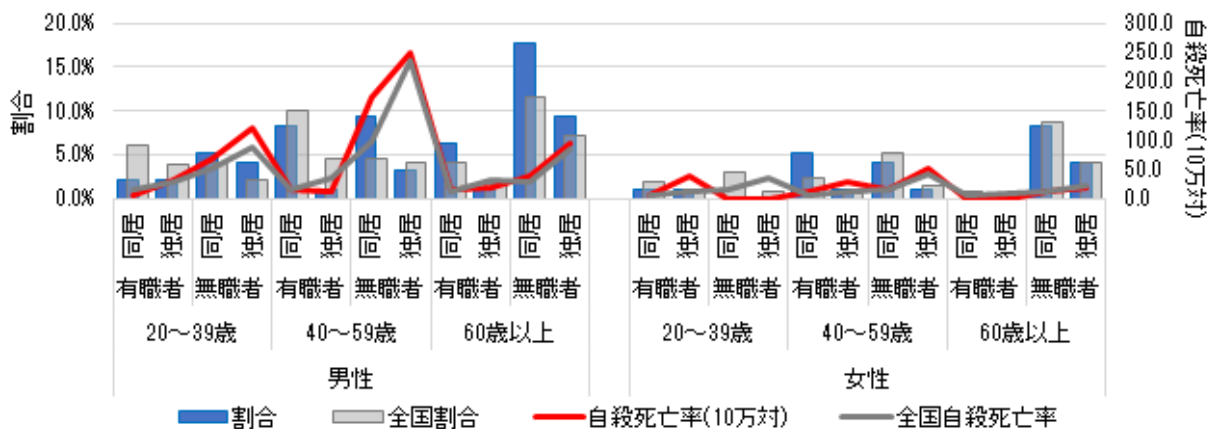
桐生市における平成 29 (2017) 年から令和 3 (2021) 年の自殺者数を性別、3 区分の年齢 (20~39 歳、40~59 歳、60 歳以上。20 歳未満は含まない。)、同居人及び職業の有無により集計し、その人数の多さに基づき、自殺者数が同数の場合は自殺死亡率の高い順に順位をつけたところ、以下の順位となります。

桐生市の主な自殺の特徴 (特別集計 (2017~2021 年))

上位 5 区分	自殺者数 (5 年計)	割合	自殺死亡率* (10 万対)	背景にある主な自殺の危機経路**
1 位:男性 60 歳以上 無職同居	17	17.7%	38.9	失業 (退職) →生活苦 + 介護の悩み (疲れ) + 身体疾患 →自殺
2 位: 男性 40~59 歳無職同居	9	9.4%	172.4	失業 →生活苦 →借金 + 家族間の不和 →うつ 状態 →自殺
3 位: 男性 60 歳以 上無職独居	9	9.4%	92.9	失業 (退職) + 死別・離別 →うつ状態 →将 来生活への悲観 →自殺
4 位:男性 40~59 歳 有職同居	8	8.3%	14.2	配置転換 →過労 →職場の人間関係の悩み + 仕事の失敗 →うつ状態 →自殺
5 位:女性 60 歳以上 無職同居	8	8.3%	10.7	身体疾患 →病苦 →うつ状態 →自殺

\*自殺死亡率の母数 (人口) は令和 2 年国勢調査を元にいのち支える自殺対策推進センターにて推計した。

\*\*「背景にある主な自殺の危機経路」は自殺実態白書 2013 (ライフリンク) を参考にした。



自殺者の割合と自殺死亡率（人口10万対）（2017～2021年）

性別	年齢階級	職業	同独居	自殺者数	順位	割合	自殺死亡率 (10万対)	推定人口*	全国割合	全国自殺死亡率 (10万対)
男性	20～39歳	有職者	同居	2	14	2.1%	7.0	5,698.5	6.0%	15.9
			独居	2	13	2.1%	31.4	1,275.4	3.9%	28.2
		無職者	同居	5	7	5.2%	66.8	1,497.5	4.2%	52.4
			独居	4	9	4.2%	119.1	671.6	2.1%	89.0
	40～59歳	有職者	同居	8	4	8.3%	14.2	11,273.7	10.0%	16.1
			独居	1	19	1.0%	13.0	1,541.4	4.5%	34.8
		無職者	同居	9	2	9.4%	172.4	1,044.3	4.6%	97.0
			独居	3	12	3.1%	250.4	239.6	4.1%	237.0
	60歳以上	有職者	同居	6	6	6.3%	16.7	7,182.1	4.0%	12.4
			独居	1	18	1.0%	17.9	1,114.9	1.6%	30.2
		無職者	同居	17	1	17.7%	38.9	8,737.9	11.6%	28.4
			独居	9	3	9.4%	92.9	1,938.1	7.3%	83.2
女性	20～39歳	有職者	同居	1	20	1.0%	4.3	4,627.8	1.8%	6.0
			独居	1	16	1.0%	37.1	539.6	1.0%	11.6
		無職者	同居	0	21	0.0%	0.0	2,464.2	2.9%	15.9
			独居	0	21	0.0%	0.0	268.4	0.9%	33.4
	40～59歳	有職者	同居	5	8	5.2%	12.4	8,067.2	2.4%	5.9
			独居	1	17	1.0%	28.6	700.3	0.6%	12.2
		無職者	同居	4	11	4.2%	16.3	4,914.8	5.1%	16.3
			独居	1	15	1.0%	51.1	391.7	1.4%	43.3
	60歳以上	有職者	同居	0	21	0.0%	0.0	3,323.2	0.8%	5.6
			独居	0	21	0.0%	0.0	733.3	0.2%	7.4
		無職者	同居	8	5	8.3%	10.7	15,013.8	8.7%	12.8
			独居	4	10	4.2%	17.9	4,457.7	4.1%	20.4

\* 各区分の自殺死亡率の母数とした推定人口については、令和2年国勢調査就業状態等基本集計を用い、労働力状態が「不詳」の人口を有職者と無職者（労働力人口のうち「家事のほか仕事」、「学業のかたわら仕事」と失業者および非労働力人口の合計）に按分した。

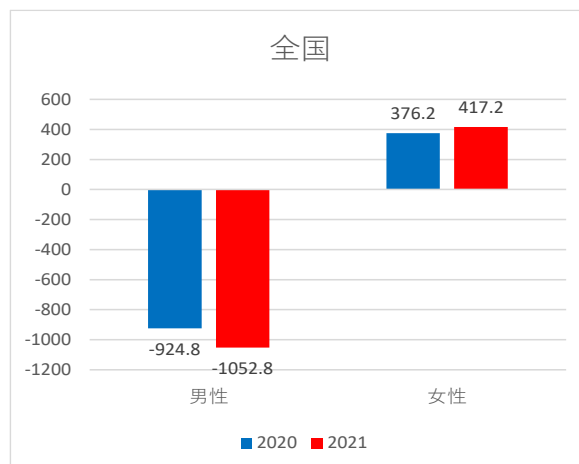
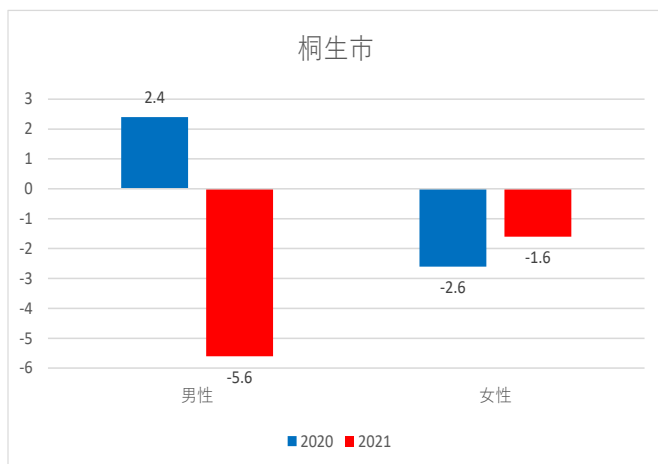
〔資料〕いのち支える自殺対策推進センター「地域自殺実態プロファイル2022年更新版」



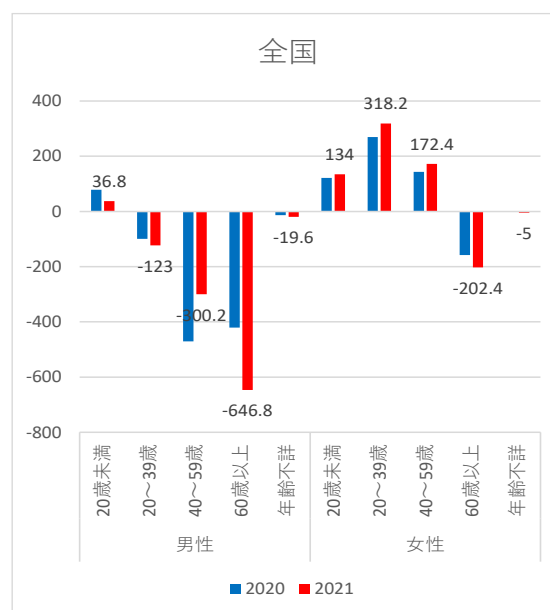
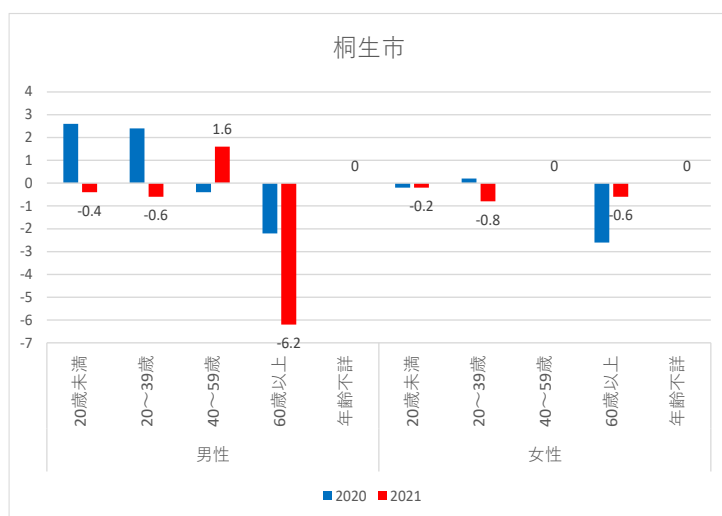
## (9) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大下の自殺の動向

桐生市の令和2（2020）年及び令和3（2021）年の男女別の自殺者数について、感染拡大前の5年間（平成27（2015）年から令和元（2019）年まで）の自殺者数の平均との差を示しています。平均との比較であるため、整数とならない場合があります。参考として、全国の様相も掲載します。

### 【男女別】



### 【男女別・年齢階級別】



〔資料〕 いのち支える自殺対策推進センター「地域自殺実態プロファイル2022年更新版」

## 2 これまでの取組と評価

第1期自殺対策計画では、自殺死亡率及び自殺者数における数値目標を掲げ、5つの基本施策と4つの重点施策について取り組んでまいりました。第1期自殺対策計画策定時に設定している数値目標を基に、計画の達成状況について以下のとおり評価します。

※なお、第1期自殺対策計画は令和5（2023）年度までとなりますが、現時点で掲載可能な年度の実績で評価しています。

### 【数値目標】

項目	目標数値	基準値（平成28年）
令和5年の自殺死亡率	14.35以下	20.5
令和5年までの自殺者数	14人以下	24人

### 【実績】

	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
自殺死亡率	16.45	20.22	16.96	19.07	12.92	12.22
自殺者数	19	23	19	21	14	13

自殺死亡率については、令和4（2022）年時点で「12.22」となり、自殺者数については、令和4（2022）年時点で「13人」となり、令和5（2023）年の目標を両項目で上回りました。

自殺死亡率及び自殺者数ともに減少傾向にはあるものの、令和2（2020）年では前年を上回っており、今後も引き続き自殺対策を推進していく必要があります。

### 3 こころに関する意識調査結果（分析）

本計画の基礎資料とするため、令和5（2023）年5月24日～令和5（2023）年6月16日に「こころに関する意識調査」を実施いたしました。対象は市内在住の15歳以上（令和5（2023）年4月25日現在）無作為2,000人とし、回収数804人で回収率は40.2%でした。

桐生市における自殺の特徴に合わせ、年代別、有職者、生活困窮者、新型コロナウイルス感染症拡大による影響について、集計内容を抜粋します。

#### （1）年代別

年代別の回答者数は男性が44.2%、女性が54.5%、回答しない・無回答が1.4%となっています。高齢者が半数以上を占めており、高齢者の関心の高さがうかがえます。

悩みやストレスを感じる割合を比較したところ、30歳～59歳は悩みやストレスを抱える割合が高くなっています。悩みやストレスの原因としては、全世代で「病気など健康の問題」、「経済的な問題」と回答した割合が高くなっています。また、30歳～39歳は日々の生活の中の問題が「毎日ある」と回答した割合が高くなっています。

悩みやストレスの解消法としては、どの年代においても、「睡眠」が最も高くなっていますが、30歳～39歳は「我慢して時間が経つのを待つ」と回答した割合が他の年代と比べると高く、ストレスを抱え込んでいる状況が長期間続いている傾向にあります。

悩みやストレスを感じた時に相談する相手は、全世代で「家族や親族」「友人や同僚」が高くなっていますが、高齢になるにつれて低くなり、「かかりつけの医療機関の職員」に相談する割合が高くなっています。また、若年層については、「インターネット上だけのつながりの人」と回答した割合が他の年代と比べると高くなっています。

自殺については、全世代で「自殺を考える人の多くは、精神的に追い詰められて他の方法を思いつかなくなっている」、「自殺する人は、よほど辛いことがあったのだと思う」「自殺をしようとする人の多くは、何らかのサインを発している」と考える割合が高くなっています。

回答者のうちで、本気で自殺を考えたことがある人は116人と全体の14.4%となっており、30歳～59歳の回答者については、約20%が自殺したいと考えたことがある状況になっています。自殺をしたいと考えた理由は、「家庭の問題」が45.7%と最も高く、次いで「病気など健康の問題」が37.9%、「経済的な問題」が31.9%となっています。「家庭の問題」の中では、「家族関係の不和」が58.5%と最も高く、「病気など健康の問題」では「心の悩み」が52.3%と最も高く、「経済的な問題」は、「生活困窮」が67.6%と最も高くなっています。また、「学校の問題」については、いじめの割合が69.2%と最も高くなっています。自殺を思いとどまった理由としては、「時間の経過とともに忘れさせてくれた」が41.4%と最も高く、次いで「家族や大切な人のことが頭に浮かんだ」が26.7%となっており、家族など大切な人の存在が大きく、相談相手も家族や友人と回答している割合が高くなっていました。

## **(2) 有職者の状況**

回答者の職業については、有職（専業主婦、学生、その他、無職、無回答を除く会社員等）と回答した人が全体の47.5%となっています。男女比は男性が49.7%、女性が49.2%でした。有職者の回答内容は、年代別とほぼ同様の傾向ではありますが、本気で自殺を考えたことがある人の割合は、16%であり、全体の14%より高い結果となりました。有職者のほうが、自殺につながる悩み、ストレスを感じていることがうかがえます。

## **(3) 生活困窮者の状況**

家庭の家計の余裕はどの程度あるかについて、「全く余裕がない」と回答した人は全体の18.3%となっています。特に、単身世帯、ひとり親と子の世帯の割合が高くなっています。「あなたはどの程度幸せですか」については、とても幸せを10点とし全体の平均は6.4点になっていますが、「全く余裕がない」と回答した人の平均は4.7点と低くなっています。また、悩みやストレスについても現在抱えていると回答した割合が高い傾向にあります。

## **(4) 新型コロナウイルス感染症拡大による影響**

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い感じたこととしては、「神経過敏に感じた、気がはりつめていた」と回答した割合が43.7%で、「気分が落ち込んで、何が起こっても気が晴れないように感じた」が19.3%となっています。これらを回答した人は、幸福度も低い傾向にありました。また、「どれもなかった」と感じた割合も29.2%いました。

新型コロナウイルス感染症拡大で不安に思ったことは、「自分や家族への感染への不安」が77.5%と最も高く、その不安を解消するために予防行動を行っていると回答した割合が高くなっています。若年層だと、ゲームやテレビ、動画配信サービスなど娯楽をする割合が高い傾向にあります。

新型コロナウイルス感染症拡大による不安やストレスなどを解消するための支援や対策として必要だと思うこととしては、「感染対策やワクチン、各種給付金制度や相談先などの情報の周知」が53.5%と最も高く、次いで「相談体制の強化」、「生活支援・就労支援」という結果になりました。

## 4 対策が優先されるべき対象群の把握

桐生市の平成 29（2017）年～令和 3（2021）年までの 5 年間の自殺死亡率の平均は、全国と比べ高く、意識調査においても「日々の生活における感情について」の回答では、絶望的だと感じる、自分は価値のない人間だと感じる頻度が「毎日」から「まれにある」まで含めると約 40%が感じると回答しており、危機的な感情は、誰にでも起こりうると考えられます。

意識調査において、有職者は「本気で自殺を考えたことがある」と回答した割合が高いため、自殺に追い込まれないよう対策を検討する必要があります。また、『第 2 章 1. 全国との比較（8）桐生市の自殺の特徴』（P.14）に記載のとおり、自殺の背景にある危機経路として失業（退職）があげられているため、有職者が失業者・無職者となることがないように対策を行うとともに、有職者が失業者・無職者となった場合の対応について必要な対策を講じていく必要があります。

悩みやストレスを感じた時に、相談機関には相談しない傾向があることから、助けを求めることが適切であることを普及啓発していくとともに、相談支援体制の充実が求められ、地域全体での支援体制の構築が重要となります。また、自殺対策に関する PR 活動について、必要と回答した割合が 76%であることから、自殺に関する啓発物について改めて掲載方法や啓発方法を検討し、予防的な取組を推進する必要があります。

桐生市としても自殺を「社会全体の問題」ととらえ、自殺対策が優先されるべき対象群を絞り込み、対象群に合わせた対策について取組を講じて、成果目標に繋げていきます。

桐生市における自殺の特徴から優先される対象群（重点課題）

- 1) 高齢者
- 2) 生活困窮者
- 3) 無職者・失業者